

第2回電子入札コアシステム利用者会議 議事概要

日 時 : 平成 22 年 12 月 17 日 (金)

15 : 30 ~ 17 : 00

場 所 : ホテル ルポール麴町

出席者 : 配付資料 (出席者一覧) の通り

1. 開会

2. 主催者あいさつ

財団法人 日本建設情報総合センター 理事長 門松 武

3. 座長あいさつ

名古屋工業大学大学院 山本幸司 教授

4. 議事

(1)利用者アンケートの結果

JACIC より説明 : 資料 2 - 1、参考資料 2 - 2、2 - 3

(2)電子入札コアシステム事業改善方針 (案)

JACIC より説明 : 資料 2 - 1

(3)利用者の意見の拝聴

別紙の通り

(4)その他

5. 閉会

(別紙) 利用者の意見の拝聴

○ 国の機関

- ・ 収入の半分が過去の改良費の返済にあてられ、連続して赤字の収支になっている。こういう状況では料金の値下げは厳しいばかりか、運用を危惧している。赤字経営改善の考え方を聞きたい。

(JACIC)：皆様のご意見をもとに、共通部分を絞り込んで経費のかからない開発を行うのが基本である。OS のバージョンアップへの対応を最優先に、次いで暗号アルゴリズムの移行などへの改良投資をこなした上で、ご要望に対応しつつ開発費用を削減し、赤字補填に頼らない自立を目指す。料金負担増にならない範囲でこれらサービスの充実に努めたい。

- ・ 処理速度の性能向上をやっていただくのは大変ありがたい。収入の不足額は、どこから補填されているのか。

(JACIC)：平成 21 年度までの財団の会計処理は一括計上の経費があり、どこからの収入かは明示されていない。各業務の黒字分が全体の財布の中に入り、足りない分がそこから支払われるものと認識している。

- ・ 支出の透明性は、重要なことだ。料金の適正化について支出のバランスを含めて今後検討いただき、必要なものには支出するのであれば、料金の上げ下げ両方の検討をお願いしたい。

○ 地方公共団体

- ・ システムの機能をあげた場合に、新しいコアのバージョンにしか新しい機能が見つからない。OS のバージョンアップへの対応、暗号アルゴリズムの対応などは、全部のバージョンが公平に恩恵を受けるため、優先度が高いと私たちは考えている。
- ・ 発注者だけでなく、利用者の意見を聞くことができ、有意義な会議であった。
- ・ 料金については、本日の説明で厳しい財政状況であることが分かったので現状維持はやむを得ない。
- ・ 厳しい予算状況の中でも、最新 OS への対応や暗号アルゴリズム移行対応が遅れることのないよう対応いただきたい。それが難しいのであれば国の管理で行うべきである。(電子入札システムが無くなることはあってはならない)
- ・ 利用料金は現状維持でよいが、改善方針(案)のとおり利用料金の透明化・システムの機能充実・処理速度の性能向上・保守サポートの充実に努めていただきたい。
- ・ 保守の内容をホームページ上で詳細に明示して欲しい。
- ・ システムの処理速度の改善を望む。
- ・ できる限りの低料金化を望む。
- ・ システム改良費(改良費返済金、改良費)、保守費に係る費用が適正かどうかを検証できるよう求めたい。(どんな改修にいくらかかっているか、ユーザサポートにいく

らかかっているかなどを具体的に。)

- ・ 料金体系の細分化により、電子入札導入団体の拡大に努めてほしい。
- 独立行政法人等
 - ・ 現行の電子入札システムでは、「せり下げ方式」の対応ができないため、総合評価方式での利便性と性能の向上を優先的に行ってほしい。
- 業界団体
 - ・ 事務の効率化のため、性能改善を望む。
- 座長まとめ
 - ・ JACIC 側からは、ユーザのご要望をお聞きし、コアシステムの機能充実、性能向上について順次努力をしていくということだった。また、コアシステム事業が赤字でもあり、料金値下げの案は提示されなかった。
 - ・ 来年度もコアシステムの利用者会議を実施するなど、今後もいろいろと利用者のご意見等を聞く機会が維持される方向が示された。